

青森県営浅虫水族館

移動水族館

実施期間：平成29年8月1日（火）～平成29年11月30日（木）



イルカの健康管理についての解説を聞く子供達



タッチコーナーで解説を聞く子供達



ジンベエザメの大きさを体感する子供達



様々な魚の感触を確かめる子供達

【事業の内容・目的】

- 当館独自でこれまで行ってきたアウトリーチ活動の内容を「海の学び」の視点を取り入れる事により充実した学習プログラムに発展させると共に、従来実施対象としていた水族館への来館が容易ではない県内の特別支援学級を始め、これまで1カ所だけであった高齢者の方を対象とした施設のみならず、新たに一般学級や施設へと広げたアウトリーチ活動として水族館の展示生物などを出前することにより水族館ならではの観点から「海に親しみ」、「海を知る」場を提供した。
- 水族館を出前することにより「海の生き物」と触れ合う場を創出し、次世代を担う子供達が「海に親しみ」、「海を知る」機会とする。
- 高齢者の方々が幼い頃に慣れ親しんだ「海への思い出」を覚醒させ、「命の尊さ」、「海を守る」ことの大切さを再認識することにより、「海」を次世代へ残そうとする意識喚起を促す機会とする。
- 視覚だけではなく聴覚、触覚、味覚、嗅覚を使う体験キットとすることで、一般の方はもちろん障害のある方も含めた「誰も」が「海に親しみ」、「海を知る」ことを実感できる体感型アウトリーチ教材を開発、製作することによって、今後も海の学びのアウトリーチ活動を行える体制づくりの第一歩となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

活動の様子

1. 特別支援学校等を対象とした移動水族館

【開催日時】平成29年9月5日（火）10:40～11:30

【開催場所】青森県立青森聾学校 体育館

【参加者数】30人

【活動内容・目的】

- 一般市民ほど気軽に様々な体験をしがたい特別支援学校等の方たちを対象に、海に触れあう体験プログラムである移動水族館を出前した。
- ヒトデ、ウニなど地元のむつ湾に実際に生息する生物とタッチプールで触れ合えるようにすることで、地域の海の生態や環境について体験的に親しむ機会とした。
- 海の生物の展示や生体に直接触れることによって、それらの生物が棲む海という環境そのものを感覚的に感じることで、「海への親しみ」、「海の雄大さや生物にとっての役割」、「命の尊さ」を感じる機会とした。
- 海の生き物に触れるタッチングプールや魚によって違う匂いがすることを体験するなど、視覚だけではなく聴覚、触覚、嗅覚といった感覚を複合的にフル活用した体験プログラムとし、「誰も」が実感できる体感型アウトリーチ教材によって、障がいのある子供達が感覚的に「海を知る」ことの手助けとなった。



会場全景



開催セレモニー



タッチコーナーで解説を聞く子供達



魚の感触を確かめる子供達



音を出す海の生物を体感する子供達



海の生物の生息水温を体感する子供達

タッチングプールで地元の海の生物に触れることにより、地域の海の生態や環境について子供達が体験的に「海の生物にとっての役割」や「海への親しみ」を感じることができた。また、色々な魚に触ることによって肌触りや匂いの違いを感じ、さらに様々な感覚を刺激するアウトリーチ教材を利用することによって障がいのある子供達が視覚だけではなく触覚、嗅覚、聴覚といった感覚を駆使して感覚的に「海を知る」ことの手助けとなった。



海の生物の大きさを体感する子供達



イルカの健康診断を体験する子供達



実物大の海の生物やイルカの健康診断を体感できるアウトリーチ教材によって生徒たちが海の生物の大きさや健康の大切さを実感することにより「海への親しみ」、「海の雄大さや生物にとっての役割」、「命の尊さ」を感じる機会となった。

【参加者の声】

○タッチコーナーの海の生き物を触ることによって「海への親しみ」、「命の尊さ」を感じることができ、海の環境を守っていこうと思った。

○アウトリーチ教材によって海の生き物の見え方や出す音を体感することで「海を知る」手助けになった。

2. 遠隔地の学校等を対象とした移動水族館

【開催日時】平成29年11月13日（月）13:45～14:45

【開催場所】田子町立上郷小学校

【参加者数】50人

【活動内容・目的】

- 海や水族館等が近くに無く、海を気軽に感じる事が難しい学校等を対象に、気軽に海に触れ合う体験プログラムである移動水族館を出前した。
- 自然体験豊かな昔とは違い、遊びの多様性やインターネットの普及による上辺だけの情報にあふれた現代社会において、海の生物の生体展示や触れ合いにより、普段感じる機会の少ない「海への親しみ」を喚起する場を創出した。
- 暖かい海に棲むサンゴやカクレマノミ、寒い海に棲むホタテやクリオネなど、多様な海の生物を通じて海には色々な温度・生態の違いが有るということを実感できる生息水温ジオラマや2mの実物大のカマイルカのぬいぐるみなどの地域の海に暮らす海洋生物の種類や特色をイメージする教材によって「海洋生物から見た地域の海という環境」を知る手助けとした。



会場全景



開催セレモニー



タッチコーナーで生物を触る子供達



魚の感触を確かめる子供達



音を出す海の生物を体感する子供達



タッチングプールで生きた海の生物に直接触れ、また、なじみの少ない海の生物のレプリカなどの展示に触れることによって、生徒たちが「海への親しみ」を感じ、「海を知る」機会を創出することができた。



海の生物の大きさを体感する子供達

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



海の生物の目線を体験する子供達



海の生物の生息水温を体感する子供達

実物大の海の生物のぬいぐるみ等や海の生物の目線、生息水温を体感できるアウトリーチ教材によって生徒たちは、普段は実感することの少ない「海洋生物」の大きさやその特徴を体感し、「海洋物から見た地域の海という環境」を学ぶことの手助けとなった。

【参加者の声】

- 海水を舐めるとしょっぱい事が分かりました。
- 生き物のすむ場所によって水温が違う事が分かりました。
- 海の生き物を守るためにゴミなどを捨ててはいけなことが分かりました。

3. 高齢者施設を対象とした移動水族館

【開催日時】平成29年11月24日（金）10:30～11:30、
11月29日（水）14:00～15:00

【開催場所】介護老人保健施設 青森ナーシングライフ、
特別養護老人ホーム かいふう

【参加者数】90人

【活動内容・目的】

- 一般市民ほど気軽に様々な体験をし難い高齢者施設等の方達を対象に、気軽に海に触れ合う体験プログラムである移動水族館を出前した。
- ホタテやヒトデ、ウニなど地域の海であるむつ湾に実際に生息する生物とタッチプールで触れ合うことで、地域の海の生態や環境について親しみ、体験的に知る機会となった。
- 水族館スタッフから海の思い出を想起させる声掛けと共に、海の生物の展示や地域の海の環境の解説、生体に直接触れることによって、高齢者の方々が幼い頃に親しんだ「海への思い出」を呼び覚まし、「海を守る」ことの大切さを再認識し、「海」を次世代へ残そうとする意識喚起を促す機会となった。
- 人と同じほ乳類であるイルカの体温測定を体験する体感型アウトリーチ教材などを用いて生物の健康管理を擬似体験することによって「命の尊さ」を再認識し、自らの健康や海の健康（環境保全等）について再考する手助けとなった。



会場風景



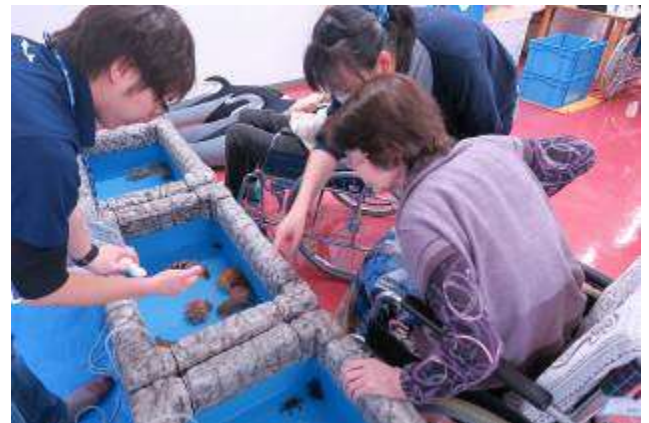
馴染み深い魚を眺める参加者



カニに触る参加者



地元のむつ湾の生物に触れる参加者



アジやタイ、カレイなどの魚の展示やタッチングプールでカニやホタテ、ウニ、ホヤなどの地元の海の生物に触れることによって幼い頃に親しんだ「海への思い出」を呼び覚まし、音を出す海の生物や海の生き物の視点を体験する体感型アウトリーチ教材を実践することによって「命の尊さ」や「海を守る」ことの大切さを再認識し、次世代へ「海」を引き継ごうとする意識喚起を促す機会を創出することができた。



イルカの健康診断について説明を受ける参加者達



イルカの体温を体感する参加者



イルカの大きさを体感する参加者

イルカの健康診断を体感できるアウトリーチ教材で健康管理を擬似体験することによって「命の尊さ」を再認識し、自らの健康や海の環境保全等について再考する手助けとなった。

【参加者の声】

- ナマコやカニを触って幼い頃を思い出し、食べたくなった。
- めずらしい白いナマコがあり、海を大切にしなければと思った。
- イルカの大きさを自分と比べられてうれしかった。
- 水槽の魚やカニを見て子供の頃、遊んだことを思い出した。
- ババガレイのレプリカを触っていたら食べた時の味が思い起こされ、食べたくなった。

【事業全体のまとめ】

海の生物の大きさや生息環境、海の生き物たちの目線を体感できる様々なアウトリーチ教材によって海にすむ生物たちの生態を分かりやすく、障がいのある方や高齢者の方々を含めた参加者たちに伝えることができ、「誰も」が「海に親しみ」、「海を知る」手助けとなった。また、人間と同じ哺乳類であるイルカの健康管理を体感する型アウトリーチ教材を用いて体温測定などの健康管理を擬似体験することによって参加者が「命の尊さ」を再認識し、自らの健康や海健康（環境保全等）について考え、「海を守る」ことを再認識し、次の世代に「海」を引き継ごうとする手助けとなった。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 青森県立聾学校	特別支援学級を対象とした移動水族館の実施場所
2. 田子町立上郷小学校	遠隔地の学校を対象とした移動水族館の実施場所
3. 介護老人保健施設青森ナーシングライフ	高齢者を対象とした移動水族館の実施場所
4. 特別養護老人ホームかいふう	高齢者を対象とした移動水族館の実施場所

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 青森朝日放送 ニュース	「ろう学校で移動水族館」 9月5日
2. 読売新聞 青森版 朝刊	「浅虫水族館笑顔をお届け」 9月6日
3. 青森テレビ ニュース	「山間地域に移動水族館」 11月13日
4. デーリー東北新聞社 朝刊	「シンベエザメと背比べ」 11月18日
5. 青森放送 ニュース	「老健施設に移動水族館」 11月24日
6. 朝日新聞 青森版 朝刊	「移動水族館がやって来た」 11月25日

以上